

【実践研究】

全ての児童の意見を生かす学級会の授業デザイン ータブレット型端末と Mentimeter を利用した新しい学級会の試みー

安達 光樹

Musashino University Creating Happiness Incubation 研究員 武蔵野大学 教育学部 講師

清水 翔

Musashino University Creating Happiness Incubation 客員研究員 日野市立潤徳小学校 教諭

要約

本研究は、人前で発表したり意見を述べたりすることに苦手意識を持っている児童が、タブレット型端末と Mentimeter¹を使用することにより、自らの意見を発表できるようにすることを試みたものである。

話し合い活動では、少数意見の考えを考慮しながら合意形成を図っていくことが求められている(文部科学省, 2017)。少数意見の考えを考慮するためには、誰もが意見を発表する環境を作ることで、何が少数意見の考えなのかを明らかにする必要がある。全ての児童が意見を発表しやすい環境で学校生活を送ることは、他者の意見を尊重することにつながり、社会のしあわせにつながると考えられる。

本研究では、人前で発表したり意見を述べたりすることが苦手な小学校 6 年生の児童 4 名に、タブレット型端末と Mentimeter を学級会で使用させることによって、意見が発表できるようになったという結果が得られた。

1. 緒言

小学校学習指導要領解説特別活動編(文部科学省, 2017)には、「学級会では、学級や学校の生活上の諸問題を解決するために、提案理由を基によりよい解決方法や実践内容について話し合い、少数意見の考えも考慮するなど多様な意見をまとめ、合意形成を図っていく。」と示されている。そのため、学校現場においては児童による活発な話し合い活動が期待される場所である。

しかしながら、話し合い活動が活性化していると思われる学級においても、人前で発表したり意見を述べたりすることに苦手意識をもっている児童が一定

数いると考えられる。さらに、周囲の児童の話し合う力が高いほど、そのような児童が他者の活発な意見交換の中で委縮したり自信をなくしたりして、自分の意見を発表することが難しくなっているケースはないだろうか。自分の意見や考えを持っているにも関わらずそれを発表できないことは、本人や周囲にとって、不幸なことであると考えられよう。また、そのような状況を改善することは、教師の義務とも言えるだろう。

では、そのような児童に対する支援は、どのように行われているのだろうか。後藤ら（2016）は、「特別活動には教科書がない。そのため、学級担任の勝手な解釈で学級会が実施されることが多く、そのことが原因で、特別活動の目標が十分に達成されないこともある」と述べている。

このようなケースがあることを踏まえると、意見を発表することが苦手な児童に対しての指導が、教師や司会の児童が発言を促したり、班などの少人数で意見をまとめさせたりすることで済まされていたことが多いとは考えられないだろうか。それでも、発言を促されたり少人数にしたりすることで自分の意見を発表できていればいいが、そうではない児童がいることも十分に考えられる。

そこで、本研究では、人前で発表したり意見を述べたりすることが苦手な児童が、タブレット型端末を利用することによって、そのことを改善できる可能性を探ることとした。本研究により、全ての児童の意見を生かす学級会のあり方をデザインすることができれば、多くの児童をしあわせにできるのではないかと思われる。

2. 研究内容

（1） 研究対象

本研究では、都内市立小学校6年生が行う学級会を対象とし、質問紙調査と学級担任の観察結果から、人前で発表したり意見を述べたりすることに苦手意識をもっている4名の児童（A・B・C・D）を観察対象として抽出した。

本学級は、特別活動を専門とする教諭が5年生から担任し、学級会では活発な話し合い活動が展開されている。また、司会者が話し合いを進行する力も高い。多くの児童が話し合いに参加できる反面、観察対象児となった4名のよう

な発言・発表をすることが苦手な児童がいる学級である。

(2) 研究方法

本研究で使用する機器は、学校に配置されている Windows タブレット型端末と iPad タブレット型端末とした。学校配置の Windows タブレット端末は、全員に配布していつでも使用できるようにし、iPad タブレット端末は、司会用とテレビ画面投影用、学校配置のタブレット型端末ではスムーズに入力できない児童用とした。これは、観察対象児だけにタブレット型端末を使用させると、本人も周囲の児童も違和感を持ってしまい自然な学級会が成立しなくなる恐れがあることと、学校配置のタブレット型端末はタッチパネルの反応が遅く、スムーズな入力ができないことが考えられたからである。その上で、タブレット端末で Mentimeter¹ を利用し、観察対象児 4 名の児童 A・B・C・D が自分の意見を発表しやすくなるか検証を行った。

(3) Mentimeter について

Mentimeter は、ウェブサイト上に公開されている、リアルタイムに投票結果等を確認できるサービスである。本研究では、複数の選択肢から自分の意見に合致するものを選択したり、挙手等による発言がしにくい場合に自分の意見を入力して発表したりするために使用する。入力した意見は即座にテレビ画面に映し出された Mentimeter のウェブサイトには反映されるため、全員がその意見を共有することができる。

(4) 発言のルール

本研究では、これまでの学級会でのルールを尊重し、児童の発言で学級会を進行することを原則としている。タブレット型端末と Mentimeter の使用が前提となると、入力に煩わしさを感じる児童が出たり、話し合いのスムーズな進行を妨げたりする可能性があることを考慮したからである。

原則として意見を発表しづらい場合にタブレット型端末と Mentimeter を使用するものとするすることで、活発な意見交換ができる児童の意欲を削ぐことがないようにした。

3. 研究経過

(1) 学級会の経過

研究調査期間中は、表1に示す通り、8回の学級会が行われた。そのうち、第5回、第6回、第7回の学級会においてタブレット型端末とMentimeterを導入した。

表1 学級会の議題

第1回	2019年4月24日	1学期の係を決めよう
第2回	2019年5月10日	ロング集会でやるお店の大体の内容を決めよう
第3回	2019年5月17日	雨の日を有意義に過ごすためのゲーム大会の計画を立てよう
第4回	2019年5月30日	ロング集会のくわしい内容を決めよう
第5回	2019年6月4日	6-2オリジナルソングをつくろう①
第6回	2019年6月11日	6-2オリジナルソングをつくろう②
第7回	2019年7月9日	令和最初の夏祭りの計画を立てよう
第8回	2019年8月30日	2学期の係を決めよう

(2) 検証方法

タブレット型端末とMentimeterを使用した第5回、第6回、第7回の学級会において、4名の観察対象児の様子を研究者らが観察しビデオ撮影を行った。その後、観察対象児がタブレット型端末とMentimeterを使用することにより、自らの意見や考えを発表できているかどうかの分析を行った。また、児童全員に表2の質問紙調査を行い、児童がどのような意識を持っているか検証

を行った。

表2 第7回学級会終了後に行った質問紙調査

タブレット(Mentimeter)を使った学級会について答えましょう。

①学級会ではタブレットを使用した方がよい。
(1 2 3 4)

②タブレットがあることで、学級会がよりよくなっていると思う。
(1 2 3 4)

③タブレットに文字を入力するのは得意である。
(1 2 3 4)

④タブレットを使うことで、あなたは意見を発表しやすくなっている。
(1 2 3 4)

⑤タブレットを使うことで、友達は意見を発表しやすくなっていると思う。
(1 2 3 4)

⑥タブレットを使った学級会のよいところを自由に書いてください。

⑦タブレットを使った学級会の課題を自由に書いてください。

⑧タブレットを使った学級会で、こんな機能があればうれしいというものがあれば、書いてください(いくつでもよい)。

4. 検証

(1) 児童Aの状況

6月4日の第5回学級会では、タブレット型端末から「アンダー・ザ・シー
理由テンポがいいから ○○」(注：○○は児童名)という入力があった。こ

の日の学級会は、クラスのオリジナルソングを作るために、ベースとなる既存の曲を何にするか意見を出し合って決めることが話し合いの中心であった。児童Aは学級ではほとんど発言・発表をしないが、この日はタブレット端末を通して自分の意見を発表することができた。

(2) 児童Bの状況

6月4日の第5回学級会では、タブレット型端末から「キセキ 八ヶ岳で歌っているからみんなの心に残っているからいいと思います ○○」(注：○○は児童名)という入力があった。

(3) 児童Cの状況

6月4日の第5回学級会では、タブレット型端末から「小さな恋の歌 理由 明るい歌だしキーワードをあてはめやすいと思ったから ○○」(注：○○は児童名)という入力があった。

(4) 児童Dの状況

7月9日の第7回学級会では、タブレット型端末から「前後半でわかれると一つ3人になるから準備が大変なのはやめたほうがいいと思う。前後半合わせても7,8人だから大変すぎると準備が終わらないと思う ○○」(注：○○は児童名)という入力があった。

この日の議題は「令和最初の夏祭りの計画を立てよう」であり、児童Dは、出し物の担当人数について意見を出すことができた。さらに、別に出されていた意見がテレビ画面に映し出されている児童Dの意見と違っていることに気づいた他の児童が、児童Dにそのことをどう思うのかという質問をし、児童Dが自ら発言をすることにつながる場面が見られた。

(5) 学級全体の質問紙調査の結果

第7回学級会終了後に、学級児童全員を対象にして表2の質問紙調査を行った。質問項目①から⑤までの結果を図1から図5までに示した。

図1は、学級会ではタブレットを使用した方がよいという質問であったが、

「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童は31人中27人であった。

図1 ①学級会ではタブレットを使用した方がよい

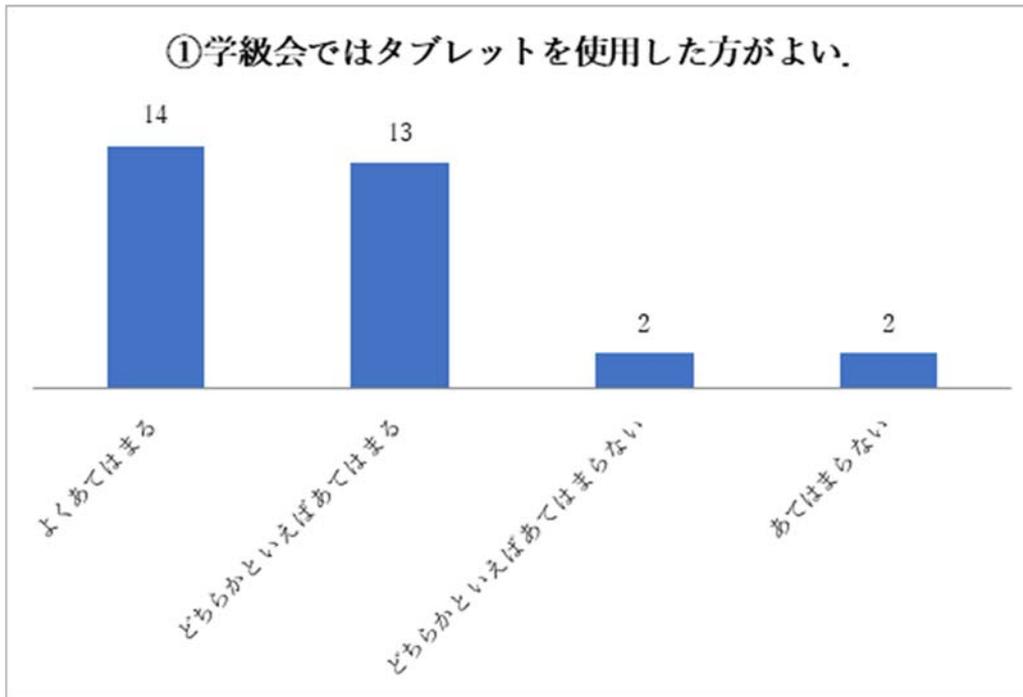


図2 ②タブレットがあることで、学級会がよりよくなっていると思う

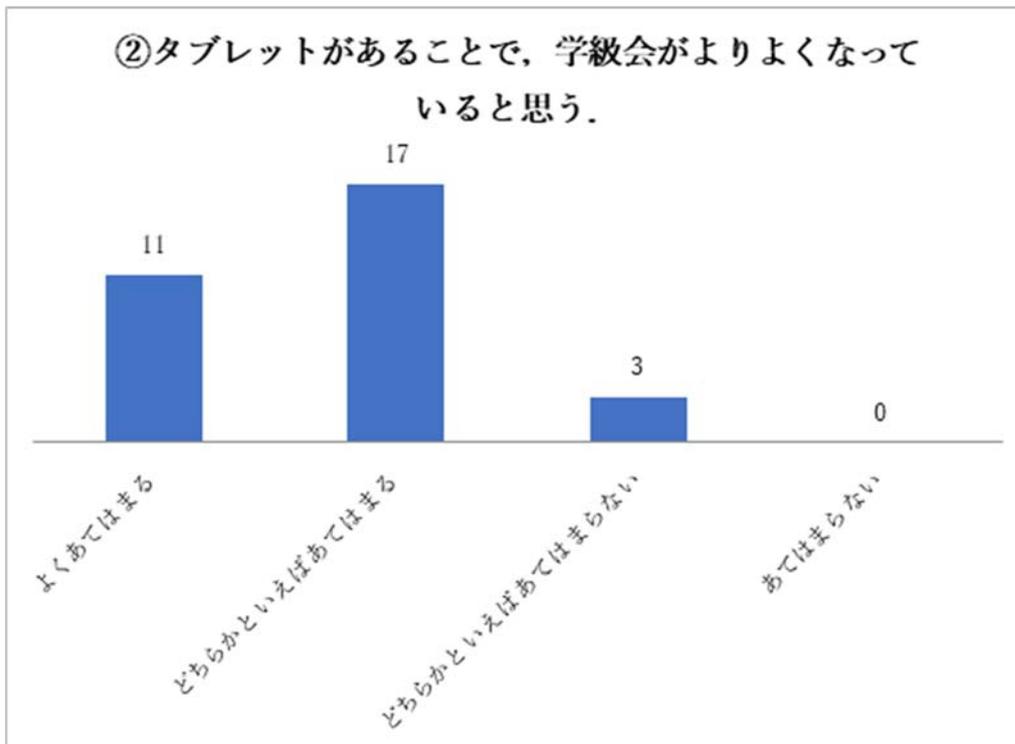


図3 ③タブレットに文字を入力するのは得意である

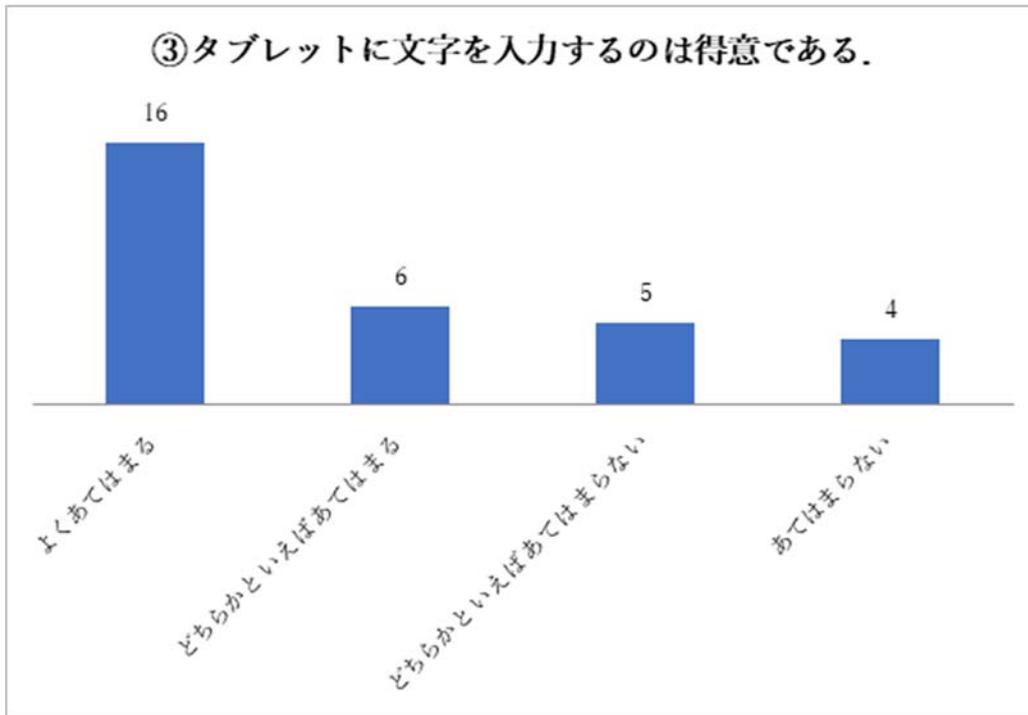


図4 ④タブレットを使うことで、あなたは意見を発表しやすくなっている

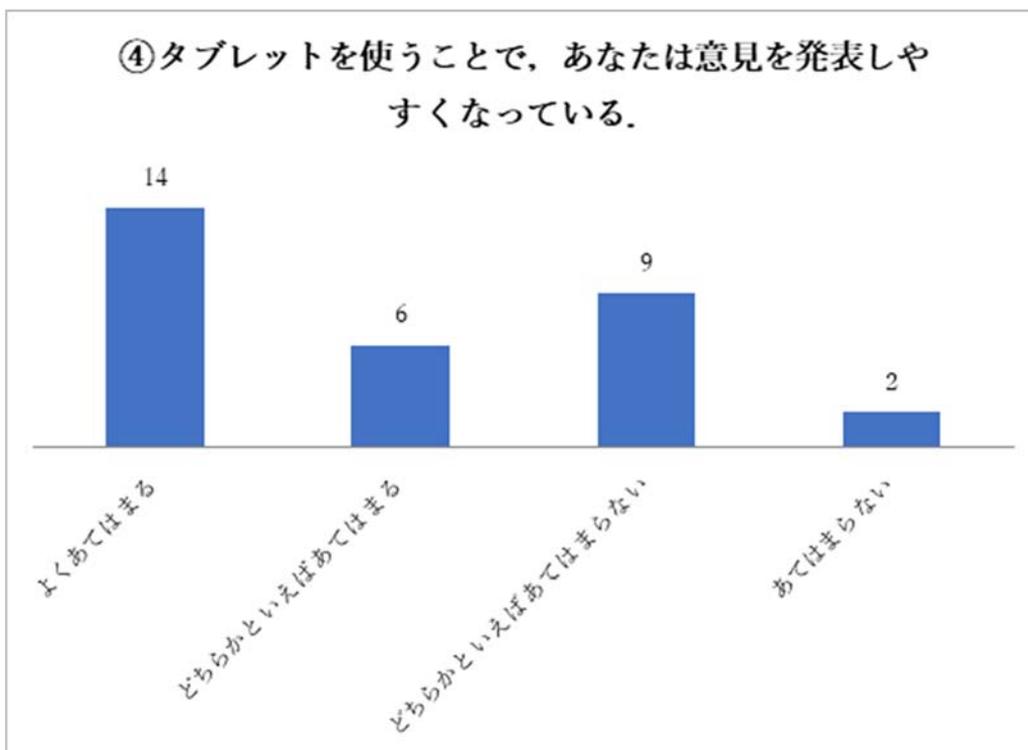


図5 タブレットを使うことで友達は意見を発表しやすくなっていると思う

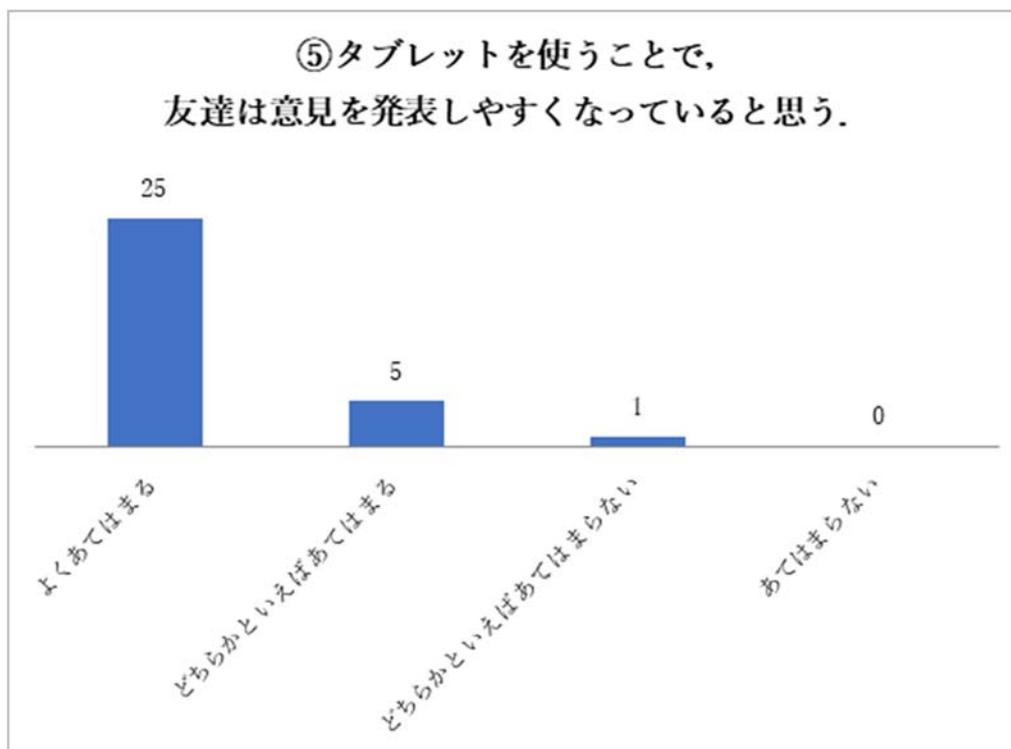


図2は、タブレットがあることで学級会がよりよくなっているという質問項目の結果である。ここでは、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童は31人中28人であった。

図3は、タブレットに文字を入力するのは得意であるという質問項目の結果である。ここでは、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童は31人中22人であった。また、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童が9人おり、タッチパネルでの入力が苦手な児童がいることが明らかになった。

図4は、タブレットを使うことであなたは意見を発表しやすくなっているという質問項目である。ここでは、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童は31人中20人であった。また、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童が11人おり、必ずしもタブレット型端末の使用が、意見を発表しやすくなることにつながってはいないことがわかる。

図5は、タブレットを使うことで友達は意見を発表しやすくなっていると思うという質問項目である。ここでは31人中30人の児童が「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答しており、タブレット型端末を使用することで、友達が意見を発表しやすくなっていると感じていることが明らかになった。

(6) 観察対象児の質問紙調査の結果

観察対象児の質問紙調査の回答結果を抽出したものが表3である。

①の質問項目では、4人全員が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答している。このことから観察対象児の4人は学級会でタブレット型端末を使用した方がいいと考えていることがわかった。

②の質問項目では児童A、児童B、児童Cの3人がタブレット型端末があることで学級会がよりよくなっていると思うと回答している。児童Dが「どちらかといえばあてはまらない」と回答している。この理由として、児童Dは「打ち込むたびにどんどん字が小さくなる」「1回しか打てない」と回答している。

③の質問項目は、タブレット型端末に入力することの得意不得意を尋ねたものであるが、児童A以外は得意な意識があることがわかった。

④の質問項目では、タブレット型端末を使うことで意見を発表しやすくなったかどうかを尋ねた。ここでは児童C以外は「よくあてはまる」と回答している。4人中3人の児童がタブレット型端末の使用により意見が発表しやすくなったことがわかった。

⑤の質問項目は、タブレット型端末を使用することで友達が意見を発表しやすくなっているかどうかを尋ねたものである。ここでは4人全員が「よくあてはまる」と回答しており、タブレット型端末の使用により友達が意見を発表しやすくなっていると感じていることがわかった。しかしながら、発表しやすくなった友達を特定する質問項目は設定されていなかったため、観察対象児が意見を発表しやすくなった友達に該当するのかわからなかった。そのため、学級全体に対する質問項目の回答と④の質問項目と合わせて、質問項目の改善が必要だと思われる。

表3 観察対象児の質問紙調査の結果

①学級会ではタブレットを使用した方がよい	
児童 A	よくあてはまる
児童 B	よくあてはまる
児童 C	どちらかといえばあてはまる
児童 D	どちらかといえばあてはまる
②タブレットがあることで学級会がよりよくなっていると思う	
児童 A	どちらかといえばあてはまる
児童 B	よくあてはまる
児童 C	どちらかといえばあてはまる
児童 D	どちらかといえばあてはまらない
③タブレットに文字を入力するのは得意である	
児童 A	どちらかといえばあてはまらない
児童 B	どちらかといえばあてはまる
児童 C	よくあてはまる
児童 D	よくあてはまる
④タブレットを使うことであなたは意見を発表しやすくなっている	
児童 A	よくあてはまる
児童 B	よくあてはまる
児童 C	どちらかといえばあてはまらない
児童 D	よくあてはまる
⑤タブレットを使うことで友達は意見を発表しやすくなっている	
児童 A	よくあてはまる
児童 B	よくあてはまる
児童 C	よくあてはまる
児童 D	よくあてはまる

5. 研究の成果

学級会後に児童全員に行った質問紙調査では、人前で発表したり意見を述べ

たりすることに苦手意識をもっている児童から、タブレット型端末によって意見が発表しやすくなったという回答が得られた。本研究者らの観察によっても、観察対象児がタブレット型端末を使用して意見を発表し、話し合いに参加している様子が確認された。

そのため、タブレット型端末と Mentimeter を使用することにより、人前で発表したり意見を述べたりすることが苦手な児童が、そのことを改善できる可能性を見出すことができるのではないかと考えられる。

6. 今後の課題

本研究における課題として、「打ち込みに時間がかかる」「Mentimeter の立ち上げに時間がかかる」「決め方の案が次々にタブレットと発言で出て、意見が流されてしまう」等の意見が児童から出された。これは、児童のタブレット型端末に対するスキル、タブレット型端末の性能、学級会の進行方法の問題と考えられる。今後も実践を重ねながら、課題を解決していくことが求められるだろう。

謝辞

本論文は 2019 年度しあわせ研究費（研究テーマ：Mentimeter を利用した新しい学級活動のあり方-誰もが自分の意見や考えを発表できる学級会をめざして-）の助成を受けたものです。

注釈

1 Mentimeter <https://www.mentimeter.com/>

参考文献

文部科学省(2017), 小学校学習指導要領解説特別活動編.

後藤和歌子, 脇田哲朗 (2016)「学級担任の学級会の指導に関する指導上の課題—教職員の意識調査から—」『福岡教育大学大学院教職実践専攻年報』第 6 号, p.6.